

S.H.I.N.O

The strongest children in the world.

🐾 JIBAKU-SYSTEM 2007

B.A.B.E.L

Though it gets him, they don't choose a means.



CONTENTS

🐾 JIBAKU-SYSTEM 2006.12.31

S.H.I.H. ㊦

P05 「SHIHO」

作：涼樹天晴

P35 「この手を離せない。」

文：竜 牙
絵：南条飛鳥

P04 目次

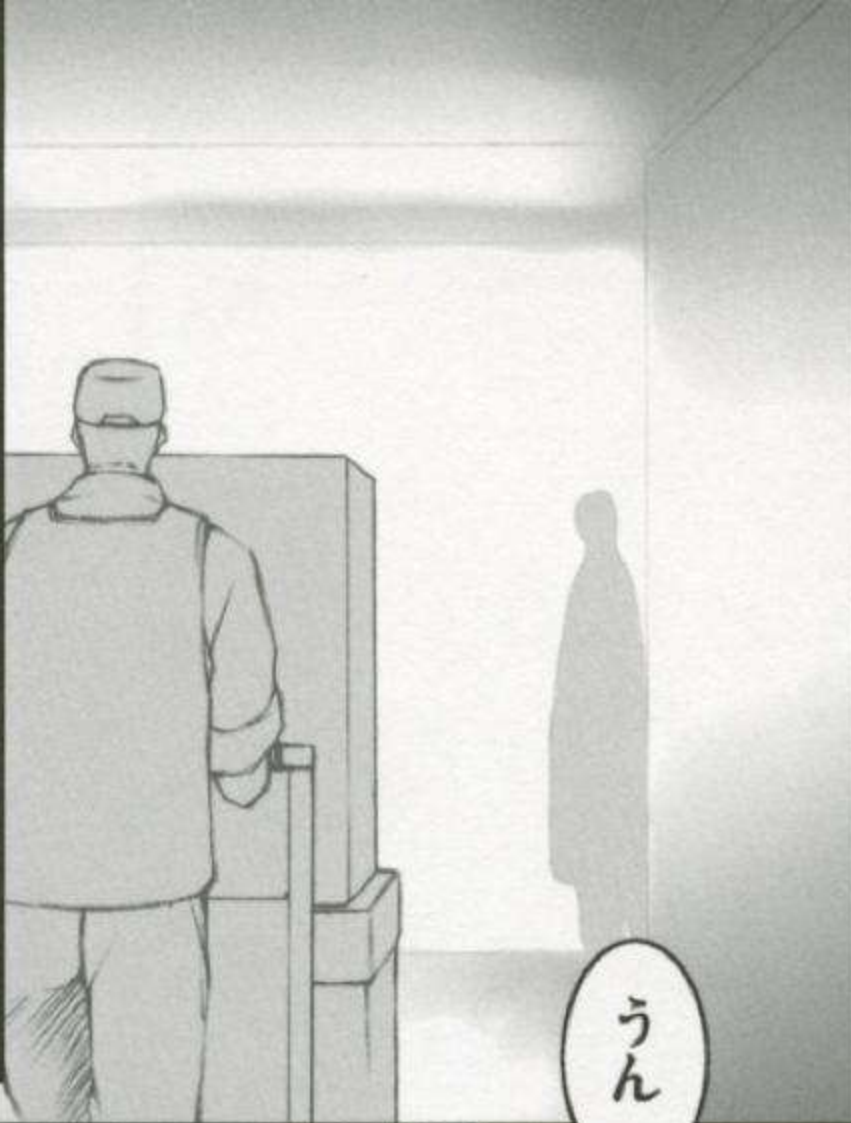
P33 なかがき

P34 イラスト

P41 あとがき

P42 おくづけ





あつ

うん

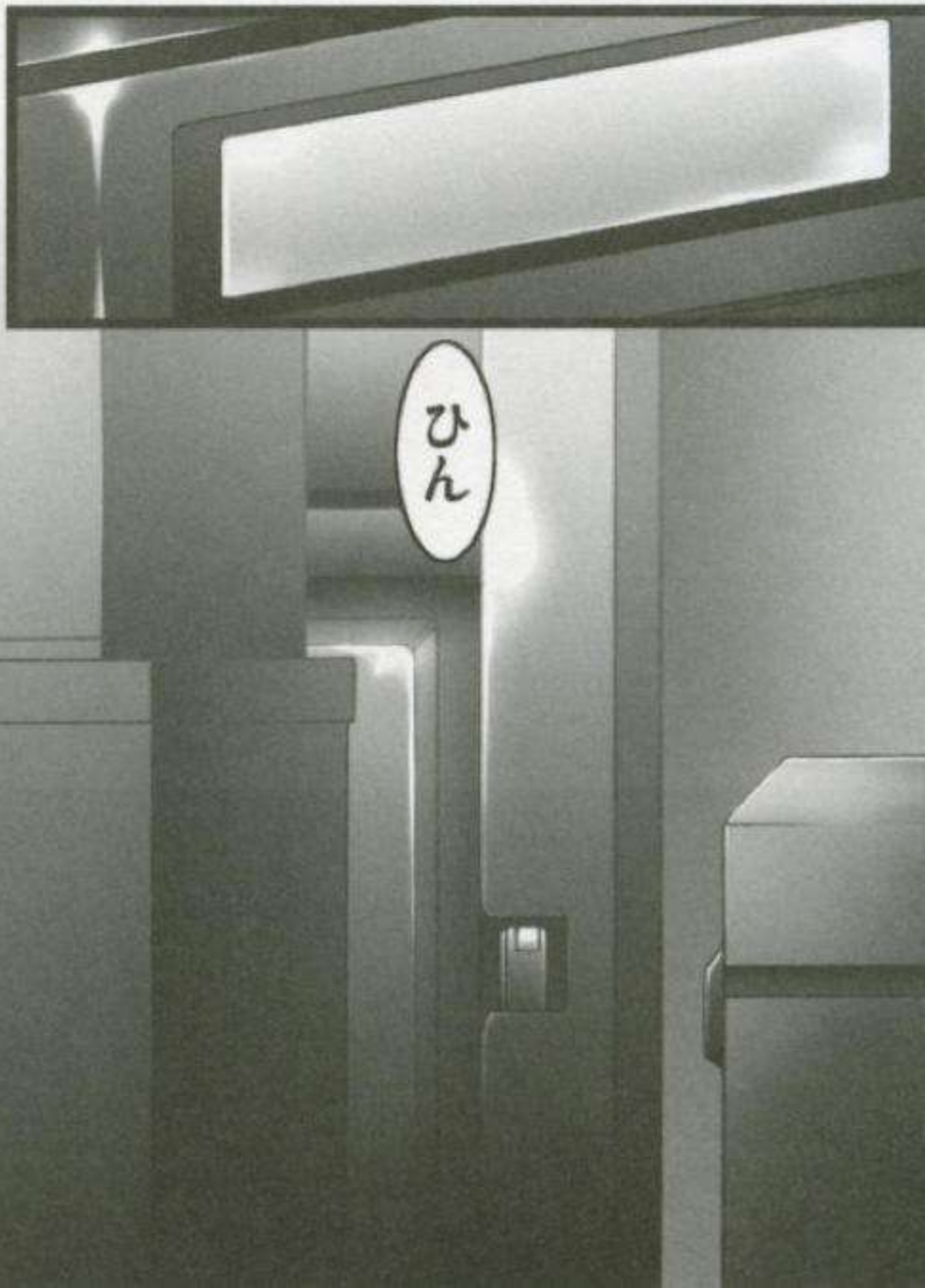


あ



はあ

はあ
はあ



ひん

ひあつ

あう

あ

あん

はあ

あう

あ

あ

あ

紫穂

紫穂お

はあ

はあ

紫穂っ







中に...出し...
なが...ら...

ズツズツ



ひい

あ

ゴボ

ゴボ
ツツ

動か...ない...で...

壊れ...ちや...う

あ

やん

まだたくさん
出てくる…

見て…こんなに一杯…
生理まだだけど妊娠しちゃうかも…

ポポポ

いまさらなんだが
やっぱり中出しは
怖いんだけど…

私まだ生理来てないから大丈夫よ

紫穂…

だって外に出したら制服が汚れちゃうわ

いやしかしたね…

……

中に出してもらわないと
した気がしないわ

駄目
な、なんで…
それなら避妊具を…

…なんでこんな事に…

コポ
コポ



■季節感無いのはこれ作ってるときはまだ真夏だったんだよね…



紫穂お

動画ファイル？

メール…
紫穂からか



—深夜—



本当に紫穂か？
だとしたらどう尋ねる？
まさか本当の事は言えないし…

何事も無く普通に夕飯は食べてたな…
いつも通り…だったよな…

動画の状態からして部屋の
ドアの隙間からの撮影

体位と喋りから今週水曜日の
映像と断定できる…

誰が？…って可能性は
紫穂しかない…よな



チルドレン就寝中

遅くまでお仕事ご苦労さま

あーん
な

し
紫穂...

しい
大声は近所迷惑になるし
薫ちゃん達が
起きてきちゃうわよ?

そうよ
メールで動画を送ったのは私よ
うまく撮れてたでしょう

なぜ...

驚いちゃったわよ

だってそうでしょう
親友の葵ちゃんと

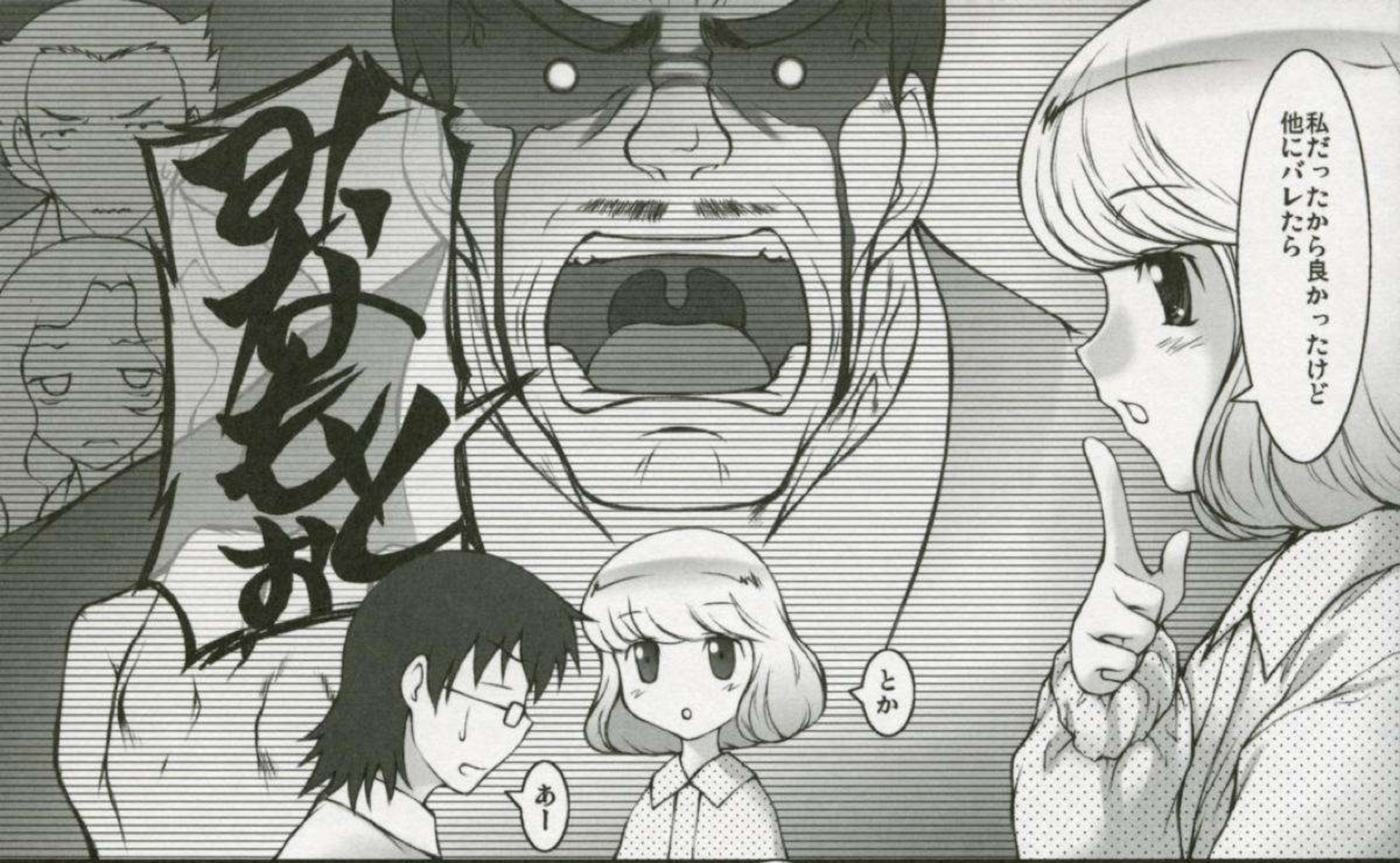
保護者の皆本さんが
あんな事してるなんて...

だから思わず
撮っちゃったの

あ...いや...その

それとメールしたのは
注意しろとゆー警告の
つもりよ





私だったから良かったけど他にバレたら

とか

あー



とかになったりして...

さらに2chでお祭り騒ぎになってP2Pで画像流出とか大事になったらパベル解体論がでたりしてそれはもう大変な事になると思うの

こんなのは序の口で...

まあ局長さん達に見せても葵ちゃんとか皆本さんの立場が悪くなるだけだしね...それは本位じゃないから、ね

こ、怖い事言うなよ...

そ、それは駄目!

でも...を薫ちゃんだけ仲間はずれにできないからに見せよっかなー

んーとじゃあね口止めとして等価交換でね

今度の休みに
デジャブーランドに
遊びにつれてって

もちろん二人だけでね

あとはー

まだあるんだ…

だってこれだけの事を黙殺するのよ
当然でしょ？

…はい

かぼっ

わ、わかった…

そのあと夜景の見える
ホテルでディナーでしょ

…はい

あこの間、可愛い
お洋服みかけたの
ほしいなー

あーはいはい…

それと明日の夕飯は
ハンバーグが食べたい
もちろん手作りね

はいはい

それと皆本さん
ちよっと目をつぶって

はいはい

えい

!!

アタカ



紫穂っ

んぐ

っっ...



っっ!!

!!

!!

!!

ほ



それと葵ちゃんとの事は
約束だから黙っててあげる

ごめんなさい皆本さん
子供で非力だからこんな
方法しか思いつかなくて...

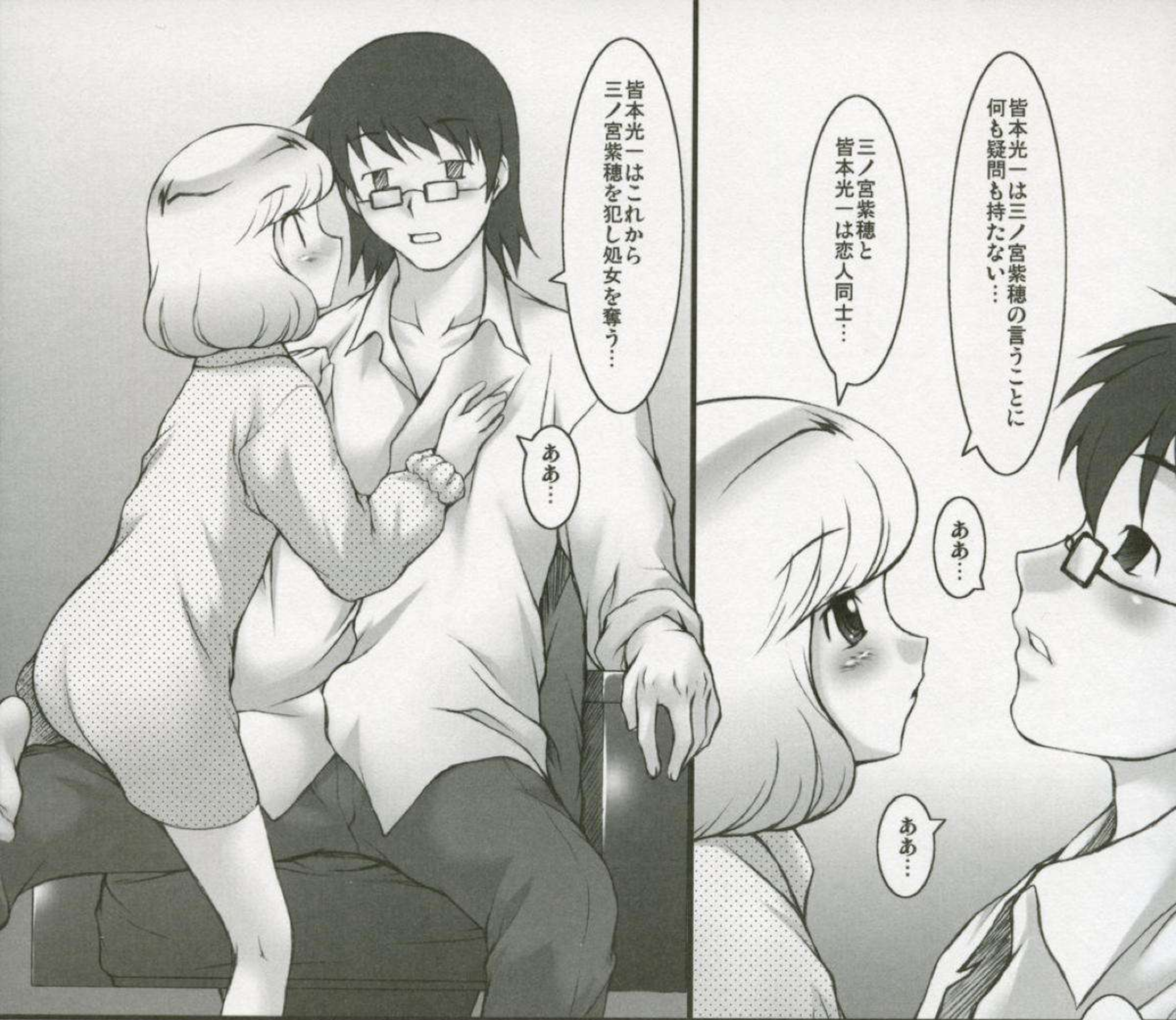
くす



皆本さん...この薬ね人の心を操れるんだって
こんな事もあろうかと思って貰ってきちゃった

もちろん黙ってただけど...
レベル5とかなんとか
あ、副作用は無いから安心してね

ぐん



皆本光一は三ノ宮紫穂の言うことに何も疑問も持たない…

三ノ宮紫穂と皆本光一は恋人同士…

皆本光一はこれから三ノ宮紫穂を犯し処女を奪う…

ああ…

ああ…

ああ…



皆本光一は3つ数えると元に戻る…

ああ…

1つ

2つ

3つ

あ…紫穂？

どうしたの皆本さん？

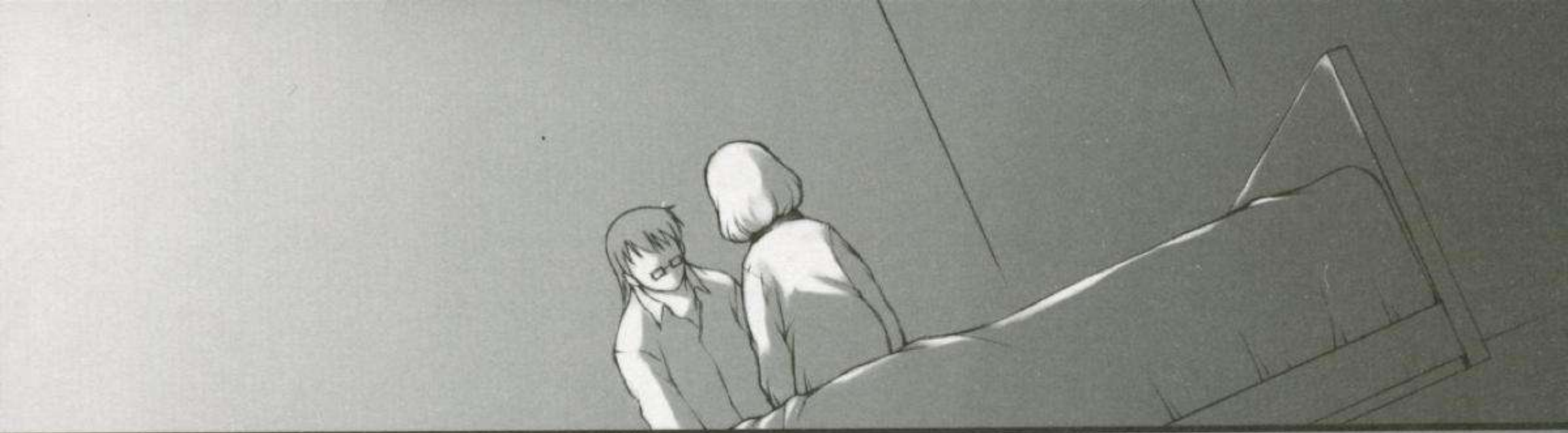
もう、こんな美少女を前にして余裕の台詞ね

あ、いや疲れてるのかな…少しポロっとしてたみたいだ

あ、いやそんな事は…

冗談よ…わかってる…さ…ベットに行きましょう

ああ



それに紫穂の胸は十分魅力的で可愛いよ

僕はそんな事は気にしないよ

ひび



あん

3353

ひび



あ

皆本さん...その...
楽しく...ないかも...

まだ...小さいから...

あの私...胸...







紫穂…

パンツ脱がすから腰上げてもらえるか？

うわ

ひくひく

あ…

え…

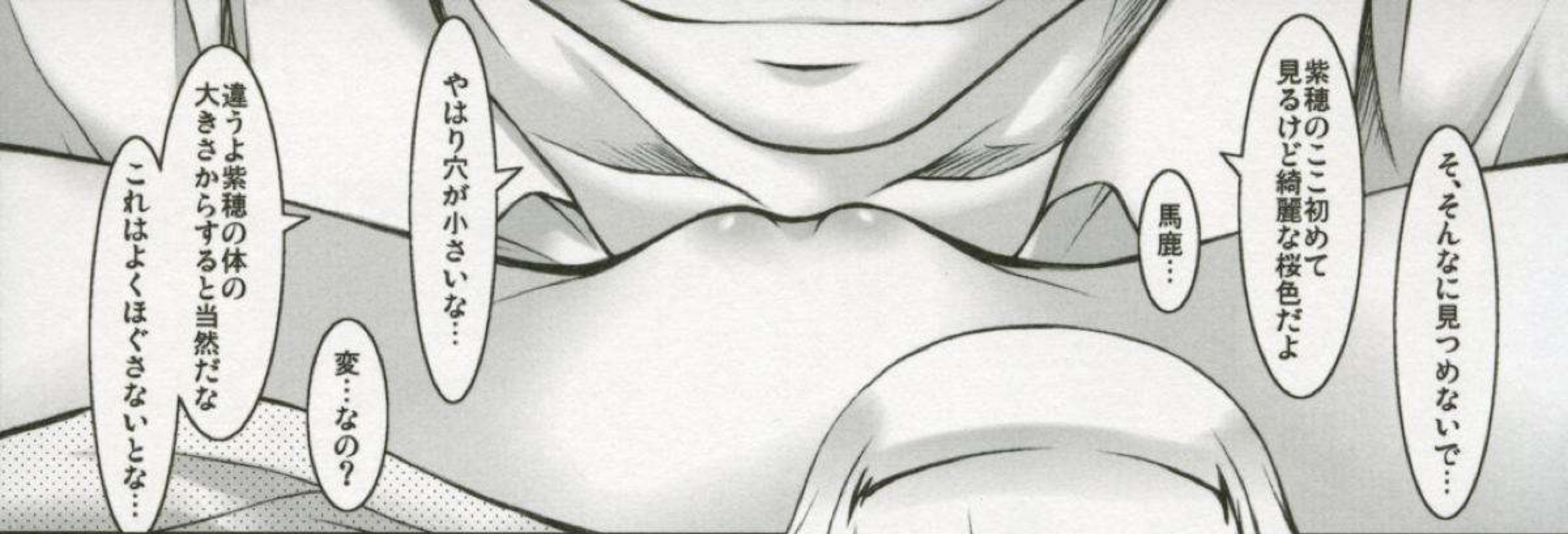
0



それとも自分で脱ぐ？

じ、自分で脱ぎます

おお綺麗な一本すじ



そ、そんなに見つめないで…

紫穂のここ初めて見るけど綺麗な桜色だよ

馬鹿…

やはり穴が小さいな…

変…なの？

違うよ紫穂の体の大きさからすると当然だな

これはよくほぐさないとな…



ふあ…ああん

やあ…

そんな…舐めない…で

ひん

ひん

ひん

ひん

ひん



あ…や

やん

くわう

はあん

ひん



紫穂…

…なに？

このまま続けていいか？

年齢的に性器が不完全のせいかわ女膜が少し肉厚だから
もしかしたら破るときとても痛いぞ…

…もう皆本さんの鈍感
私の心は決まってるの…

んん

んんん

この続けし…

ああ…わかった



おっきい...

あ...

ザン

ザン



女は度胸よね...

皆本さん...きて...私を犯して

ああ

怖いか?

あ、うん...大丈夫

紫穂?

こんなのが私の中に...本当に入るの?
私の腕より太いかも...
...いえ確実に太い...壊れちゃうかも
どうしよう...
でも...葵ちゃんも入ったし...大丈夫なの...かな...

どうしたのって顔してる...
処女膜破るときの痛みには気を使ってるみたいだけど...
薬と暗示のせいで皆本さんにとって私とセックス
する事は道徳や倫理生理的にも大丈夫だと思ってる...



あん

よっと

ぴ と



あ...はい

じゃあ紫穂...入れるぞ

みち



ここなんだが...

穴が小さくて
うまく入らないな...

あ

あ...

く ゆ

く ゆ





びく
はあ
はあ

はあ
はあ

はあ
はあ

はあ

紫穂…
奥まで入ったぞ…

みち
みち

きりきり

ああ…これが紫穂の膣内か…

先が子宮口にあたってゴリゴリしてて気持ちいいな…

こ、これは想像できない気持ちよさ…うお…で…出る…





ひん

おお

紫穂お

あっあ……

熱っ

どわわ



あ……あ

お……

奥に……

お腹の中に入ってる……

探

探

はあ

はあ

はあ

んん

んん

紫穂...

皆本...さん...

ここに...
お腹の中...あったかい...

皆本さん...好き...愛してるの

だから責任とってもらおうわ

ゴポ
ゴポ



とゆーわけで

二人の秘密の関係は
いまでも続いているのです

紫穂?

ただの独り言です



ふーん皆本さんが
そういう事を言うんだ...

葵ちゃんは水曜日で
私は金曜日で...



これはさすがに
良くないと思うんだ...

ところで紫穂

いくら人が来ないからといって
地下倉庫なんかで...

もしばれたら大変だぞ
モラル的にもどうかと思うし...



この状況を葵ちゃんは
知らないけど
私は知っている

これって三角関係の二又よね

両手に花とか言ってみる?

くう



その件は...葵には
僕の方から切り出すから...
もう少しまってくれ...

あ

また中から精液が
出てきちゃった

なあ紫穂だから
コンドームを使おうと…

ダメ
却下します

むしろいくらでも中出し
オツケーしてくれる
彼女なんて成人男子と
して諸手で喜ぶべき事
だと思わないかいまだに
生理きてないだけよ

それは大人として良いとは…

待ってあげるから
葵ちゃんとの三角関係の事は
今度3人で話しあいましょう
いいですね？

はい…

あ

もうネクタイ
ほらちゃんとして

ふーん
ええ感じやな

そうね

ここまでは基本計画どおりに進行してるわ
そやなこれ以上敵(女)が増える前に手をうたんなー
あと一手でこの勝負は詰みね
そやでここまできたら後には引けんのや



おもしろい映像が手に入ったんや
はよ帰って見よ

なんと成人向けやで

ねえ薫ちゃん

葵ちゃんがこう言ってるし
私達と一緒に見よ

ほざっ
葵ちゃんが見せるぶんには
問題ないしね

TO BE CONTINUE **[KAORU]**

■製作者特権自由言論(なかがき)■

需要無視の絶チル本で紫穂×皆本の漫画ですよw

いやもー全然描いてるサークルありませんね(;▽;)

自分的には良い素材だと思うけど人気ないのかなー

それでもまだ作る予定ですが(°▽°)ノ

…この本…売れるのかな…

もう印刷所に表紙いれちゃったから数の変更できないし…

なんかすごい不安になってきた

アワヽ(´Д` ;≡ ;´Д`)ノ アワ

……

まあいいや

で今回の本の話になりますが内容は前回の葵本の続きとゆー時間軸になってます。

紫穂ってこんな感じでいいのかな?いまだに描きづらい^^;

椎名先生の絵って躍動感あってキャラが

生き活きてるから真似づらいとゆーのもあるのかなw

なんとか作成してみましたけどどうなんでしょうか?

それと次の本の予定なのですが

最後のシーンにあるとおりに薫編に続きます、で

「K.A.O.R.U」を作成する予定です。

苺本がまた予定先送りに… 2007年以内に需要なくても作る予定です… Σ(´ρ` ;)

で絶チル本は一応薫編で終わる予定ですが予定とページに余裕があれば

このただれた話の締めくりまでを書きたいと思ってます。

最後のシーンというか終わらせ方は決まっていますw

ただそれまで本編がどこまで進むかが問題に

場合によってはネタ的に使えなくなるし(;´▽`)

なのではやめに薫本だします^^;

といいつつ夏とかになりそうで怖い…

問題は preparation系の2冊をどうするか…

再録の予定ないし作り直したいとゆーのもあるし

葵本の原稿追加して一冊にまとめようか思案中です。

とまあこんな感じです。

今回、竜牙さんと南条さんが寄稿してくれましたw

もうエロエロな文章ですw

二人とも忙しい仲ありがとうございました

この借りは精神的返礼でw

とまーとりとめもない乱文をだらだらと(=°ω°=)

なんかまたエロ漫画系に規制とかはいりそうで怖い今日この頃でした。



■表紙没ラフ画■

適当に加工したもの
当時は全然まったく紫穂のイメージが
かたまらない状態で作業したのですが
原稿がまったく進まなかったですね ^^;
ただ表紙はお尻を描くことだけは
決めていました w



この手を離せない。

竜牙

解けたのは偶然だったのか必然だったのか。

こここのところ紫穂のお気に入り暇つぶしは、皆本の中にある伊号が施したらしい、記憶シールドの鍵を探すことだった。

桁さえも分からないパスワードを探すことはほぼ不可能である。だから紫穂も解除できるとは期待していなかった。けれど、金がかからず相手もいらず、それでいて適度に興味をそそる。いつやめても、いつ初めてもいい。必要なものは皆本だけ。そういう手軽さに、つつい気が付くとやっている。

兵部京介が一度だけ、紫穂に対して呼んだ『ある一言』を思い出したので、その日のいくつかめのアタックとして、紫穂は何気なくそのキーワードを入れてみた。

その一言とは、「禁断の女帝（アンタツチャブル・エンプレス）」。京介が言うところの、未来での紫穂自身の字だ。

その瞬間、嚴重に鍵が掛けられていたはずの皆本の記憶内容に、自分がアクセスできることに紫穂は気づいた。どうやら正解だったようだ。

パスワードに紫穂の二つ名を使うということは、これは伊号からの紫穂へのメッセ

ージと考えるべきだろうか。

紫穂は伊号を思い出して見たが、彼女自身に対してメッセージをよこすほど、密度のある付き合いをしたとは思えない。ただでさえ、サイコメトラである紫穂は、人間との関連性を持つことを億劫がる傾向があった。考えたが結局、紫穂にはそこに込められた意思是読み取れなかった。

それよりも、その中身に注意力を奪われた。それは、解かなければよかったと痛烈に後悔させられるものだった……。

よく手をつないでくれるひと。紫穂にとつての皆本というのは、一言で言ってしまう存在だった。

他のチルドレンのメンバーの二人とも、もちろん皆本が手をつなぐことはよくある。しかし、回数で言うならば、圧倒的に紫穂が一番多い。

その理由は、紫穂が唯一手を握ってくれ、皆本に触れることを望んで、自分から手をつなぐことが多いこと。

そして、皆本のほうも、意識あるいは無意識に、紫穂がそれを望んでいることを察して、手を伸ばしているからだ。

皆本自身が知能指数400という異能——アインシュタインが300と俗に言われる——によって、異端として疎外感と孤独感を友に成長してきた過去による。

同じような異端であるチルドレンたち、

とりわけ他者からの接触を忌避される紫穂に対して、皆本が同情的になつてしまふのは無理からぬことだった。

皆本は、覚めた紫穂の目を見るととても辛くなつた。しかし、それ以上に……紫穂がときおり油断したときにだけ一瞬見せる、寂しげな微笑が——心に痛かった。

皆本とて健全な男子である。無防備な接触を繰り返す少女たちは、いくら低年齢とはいえ、胸もふくらみ始めている微妙な年頃である。ふとした瞬間に不意打ちのように感じさせられる、女体特有の暖かい柔らかさは、皆本にも少々エッチな気持ちを催させるときもあった。

皆本は、そういう際にも紫穂に対しての接触を避けようとは思わなかった。レベル7のサイコメトラにしてみれば、男性が女性に対して抱くそういう気持ちは、あまりにもありふれすぎていて、それが嫌悪の対象となることはないだろう。しかし、それを隠そうとする卑しい心には、確実に蔑みの視線を向けるだろうことは分かっていたからだ。

とはいえ、皆本も毎回そこまで考えた上で接触を避けないという行動に出ているわけではない。いったん『そういうふう』に折り合いをつけると、皆本は気にするのをやめることができる——脳内から閉め出してしまふことができないという、貴重な特質を持っていただけだ。単に楽天主ともいう。

というわけで、紫穂にとっては手をつない

でくれる人という評価になるわけである。

「……そう、それだけのはずなんだけど」

ぼつり、と紫穂はつぶやいた。

場所は紫穂たちの寝室である。皆本の借りていたマンションに押しかけて、そのまま居座ってしまった、その一室である。同室である薫は既に夢の国に旅立って久しい。一度睡魔を友とすると、彼女はそれを手放さないために、非常に情熱家となることを紫穂は知っていた。起きる心配はない。

葵は入浴中である。こちらもいったん入ると長いのが常なので、当分出てくる恐れはない。紫穂が沈思するのを邪魔するものはなかった。

「おかしーなあ……」

そう言いながら、紫穂は自分の手のひらをにぎにぎと動かした。つなぐ回数が多いので、そこに皆本の感触が残っている。

それがいつか消えてしまうのだろうか。

——それが怖いと思うなんて。

その一言は、声にならず、唇の中で消えた。膝をかかえて、その上に顔をうずめる。

寂しいのには慣れているはずだ。ただ、

最近ちよつとだけチルドレンという環境に染まってしまっているだけ。だから、この気持ちもすぐに自分の中で消化できるはず。

そう思っても、紫穂の中で、不安な気持ちには時間を経過するにつれて、息苦しいほどに高まっていくだけだった。

皆本の記憶の中でみた光景。それは大人

になった姿の薫が、皆本の目の前に相対しているシーンだった。お互いの手には銃が握られていた。何故か、それぞれに向けられて。

我々はチームだったはずだ。ならば、銃は外敵にこそ向けられるものはずなのに。その光景も衝撃的だったが、それよりも紫穂を打ちのめしたのは、皆本の中にあつた『気持ち』だった。

皆本は、はつきりと目の前の薫に惹かれていた。それは突然生じたものではなく、ずっと皆本の中でゆっくりと育っていたものが、相手と年齢的に釣り合うことと、銃を向け合うという極限状態から、増幅されただけだと知れた。

父性愛の強い皆本は、手がかかる薫に、どうしても心が向いてしまうのだ。

そして薫の視線にも、強い想いを感じた。まっすぐに皆本を見つめる視線に、溢れるほどの愛しさと、そして哀しみがあつた。

サイコメトラでなくとも、同じ男性を愛する女として、それくらいは分かる。

——え？

紫穂は自分の考えに、自分でとまどつた。

——愛する？ 皆本さんを？

言葉にしてしまうと、それが紫穂の中に根付いていたことがはつきり分かる。

皆本を、皆本の優しい手のひらを失いたくない。他の誰にも渡したくない。自分だけを見ていて欲しい。

それを独占欲と呼び、独占欲が愛の一面であることは間違いないのだから。

認めてしまえば、気持ちが固まるのは容易だった。自分の方にも目を向かせるにはどうしたらいいかを考えるだけだ。

皆本と薫が惹かれ合うのは、紫穂の目から見ても運命的だった。そこを邪魔するとはできないし、友人の恋を裂くこともしたくない。

——でも、そこに混ぜてもらふことは、べつに悪くないよね。

一夫一妻制の日本なのに、実際は社会的地位が高い人間ほどそうではないという現実を、紫穂は能力から知っている。そして男という生き物が、同時に複数の相手を想える生き物だということも。

それに薫もつねづね、「自分たちは運命共同体だ。なんでも一緒にやなければダメなんだ」と。そうであるならば、何も問題はないはず。

一途で一直線になる傾向の強い皆本のは、放っておけば薫だけしか見なくなるだろう。その視線（の一部でもいい）を自分に向かせるための方策を練らなければならない。

「というわけで、協力をあおぎました」

「協力することにしました」

「意味がわからん！」

マンションの壁にめり込んだ状態の皆本が叫んだ。言わずと知れた葵の能力、テレ

ポートの応用だ。

過去の学説では、テレポートにより物体同士、原子同士が重なれば、原子爆発が起きるといのが定説だった。しかしテレポートが一般的になった現代では、それが実際に起こらないことが分かっている。学者はそれを説明するために、四苦八苦しているようだが、とりあえず、皆本が身動きのできない状態になっていることについては影響がないので、それくらいにして本道に戻ろう。

「紫穂が主犯か！ 葵まで一緒になって。どっちかが止めなさい！」

「うーん、うちもなあ、最初はとめたんやけど、紫穂が真剣やさかい。それに、うちも皆本はん狙ってたんやけど、薫にとられて独占できへんなら、共有のほがええかなと」

そう言って葵は肩をすくめた。こちらは苦笑混じりである。思い詰めた表情をしている紫穂とは、だいぶ温度差がある。

はっきりとした未来図を見て、自分の中の皆本に対する気持ちを見つめた紫穂と、まだまだ『同級生に対する好き』と同レベルの葵とでは、情熱に差が出てしまうのは無理からぬところである。

「……というわけで観念してくださいね」

「できるかーッ!!」

「往生際が悪いですよ」

言いつつ、紫穂は皆本のベルトをはずし

始める。皆本は唯一自由になっている腰を暴れさせてそれを防ごうとする。高レベルのサイコメトラにとってその動きを予測して動くなど朝飯前だが、それも面倒だ。紫穂は手っ取り早い手段を選択した。

「葵ちゃん。下半身剥いちやって」

「はいな」

好奇心に顔を輝かせた葵が、テレポートで皆本の着衣をはぎ取った。

「ぎゃー！」

見ようによつては喜んでいそうな顔で、皆本は悲鳴を上げた。もちろん喜んでいわけではない。たんに絵柄の問題である。

「ま♪ ごりっば」

「おー、なかなか大きいやん」
いくら女性二人に褒められたと言っても、相手がローティーンでは喜べない。

「しくしくしく……」

汚されたという想いで、さめざめと皆本は泣いた。

「紫穂、まずは皆本はんのを使えるようにせんとあかんぞ」

「分かってますわ」

耳年増な彼女たちは、皆本のご都合など考えもしないようだ。お構いなしで、無遠慮な指を皆本の下腹部に伸ばしてきた。

「ちよ……うわっ！ それはダメ！」

小さな手に、ペニスをぎゅっと握られて、皆本は喚いた。もちろん、少女たちには、毛ほどの感銘も与えなかった。

「こうすればいいのかな……」

「紫穂……っ！ やめなさい……っ！」

柔らかい指にこすられて、皆本は快感を覚えていたが、ぐっところらえて紫穂を睨みつけた。

「そんなににらんでもダメよ。しつかり気持ちいいの伝わって来てるから。ここがいのね？」

「あーもう！ サイコメトラなんてキライだーっ！」

「紫穂、指だけじゃあちががあかんねん。

一気にばくんと行かんぞ！」

「そうね。ちよっと勇氣いるけど……」

「勇氣いるくらいイヤならやめなさい！」
当然の抗議だったが、やはり当然のように無視された。

「ばくり。」

「ああっ！ やめなさい！」

小さな唇にとらえられて、皆本は肢体を震わせた。やばい、気持ちいい。自分は口リコンではないのに。

しかし直接的な接触刺激に、禁欲を続けていた若い肉体は正直すぎた。

「お、おつきくなってきましたね」

「……ううう」

認めたくないが、はっきりと膨張させてしまった皆本だった。

そのまま調子にのった紫穂は、口による攻撃を続ける。しかし、次第に違和感を感じようになった。

「……ん？」

舐めているだけのはずの紫穂は、自分の股間にこそばゆいような快感が生じているのを感じていた。しかも、次第にそれは大きくなっていく。

——これって、男の人の感覚？

快感が大きくなってくると、それが自分に存在しないはずの器官——位置から生じていることに気づいた。

どうやら皆本の快楽を受信しているようだ。いわば、感覚共有だ。こんなことは紫穂にも初めての経験だった。

じつは、これは皆本の隠された能力のひとつである、共感能力だった。ESP系の能力を持つ人間に対して自分の性的感覚を投射してしまうのだ。このように、皆本には秘められた能力が48ある。しかしそのいずれも、極めて限定された場面かつ対象でしか作動しないものなので、この先も明らかになることはないのだった……（笑）。

紫穂は、自分の感じている快楽を逃さないように、舌の動きを早める。どんだんはつきりと気持ちよくなってきて、紫穂は体が熱くなってくるのを感じた。未成熟なはずの下腹部が、その感覚に引きずられるかたちで性感を目覚めさせていく。紫穂は自分の股間から熱いものがにじみ出すのを感じた。

——おしっこ……？ じゃない？

女性の性的興奮時に分泌する液だ。自覚

すると、はつきりと子宮がうづいていっているのを紫穂は感じた。

自分の感じている女の子としての疼きと、男の子としての気持ちよさを重ねたらどうなってしまうのだろうか。

そう思ったら我慢できなくなった。

紫穂は、無言で制服のスカートを落とし、そしてショーツも脱ぎ捨てる。まだお子様用のデザインなのに、それは紫穂の漏らした淫らな粘液で、濡れそぼっていた。

大きくなった皆本の下腹部に、迷い無くまたがる。それを見た葵がさすがにぎよつとした顔で訊いた。

「紫穂、やめなさい！ 自分が何をしてるか分かっているのか？」

「ほんまにそこまでやってまうの？」

「ん……」

皆本の声も、葵の声も、いまの紫穂には遠く聞こえた。熱に浮かされたような頭で、ただ期待だけがあった。いまの紫穂の頭には、男性の持つ根源的な「入れたい」「射精したい」という欲望に染まっていた。「射やめなさい！ こら！ それはほんとにまずいから！」

皆本は必死で腰をそらそうとして暴れたが、紫穂はその動作など予測するのに造作もない。あっさりと、幼い吐液にぬめった入り口を、皆本のペニスにあてた。

皆本は、その暖かく柔らかくぬるぬるした感触をペニスに感じて、一瞬だけ動きを

とめてしまった。童貞である彼には強すぎる刺激だったのだから、責めることはできないだろう。しかし、その一瞬で紫穂には十分すぎた。

「待っ……！！」

ずにゆう……ッ！

紫穂は、ひと思いに自分を貫いた。まさに、それは自分で自分を犯した行動に他ならない。その瞬間には皆本のこと頭から飛んでしまっていたのだから。

しかし、それから生じた激痛は紫穂ののぼせた頭をいっぺんで冷やした。

「い、いた……っ！！」

「当たり前だ！ 早く抜きなさい！」

ほぐしていない狭矮な処女膣を、大人のペニスでこじ開けられたのだ。痛みが無いわけがない。ましてや肢体も小さい小学生だ。しかし、その中に紫穂ははつきりと男性の快楽を感じていた。もちろんそれは、皆本が感じているものに他ならない。

痛みを堪えようと力をこめると、膣がぎゅつと締まる。ただでさえ狭いところ、そうやって襲にしばらくられたのだからたまらない。皆本の童貞ペニスはあつという間に快楽の噴水線を超えてしまった。

高まる射精欲に、紫穂はあえいだ。気持ちいい。痛い。出したい。抜いて欲しい。射精したい。我慢できない！

紫穂は自分の腰をすりつけた。紫穂の中で、射精欲と快感が勝ったのだ。

「くうっ！」

二人の声がユニゾンした。それほどに強い悦楽だった。そしてその甘美な刺激に、紫穂の女性の部分も否応なく引きずられてしまう。痛みはまだ残っていたが、すでに遠かった。

こみあがる射精欲と快感に強制されて、紫穂はつたないながらも腰を使い始めた。そうやって動くと、ますますたまらなくなってしまう、よけいに腰を早める。なにせ自分で気持ちいいところが分かるのだ。すぐに年期の入った娼婦のような、巧みな腰使いを覚えていく。

「だめだ！ 紫穂！ 抜いてくれ……！」
たまらず皆本は許しを請うた。このままでは膣内に射精してしまう。それだけは避けねば。

しかしサイコメトラに建前は通じない。
「そんなに……膣内で、出したいんだ……
だいじょうぶよ、私まだ生理ないから」

それが免罪符になるわけではないが、幾分皆本の中での抵抗が減ったのは否めない。

紫穂は皆本そのもの——いや、ペニスそのものと同化したように、射精欲にとりつかれていた。最高の瞬間を求めて、いよいよ腰の動きを早める。もう痛みはない。力の強弱で、ペニスを絞ることも覚えた。あとは自分の子宮口をぐりぐりとこすりつけて、そこに思う存分射精するだけだ。

紫穂は細く幼い腰を思う存分ふるって、

皆本のペニスを未成熟な襲でしぼりあげた。脳内に、生まれて初めて感じる閃光がはじける。紫穂は皆本は、ペニス先端と子宮口を互いにおしつけあい、射精した。

「くあ……っ！」 「ああ……っ！」

皆本の顔をAカップの胸に抱きしめ、紫穂は初めての射精感と、膣内射精された衝撃とに、細い肢体を激しく痙攣させた。

強すぎる快楽を受け止めかねて、紫穂の意識のブレーカーは落ちる寸前だった。

ただ、どくどくと胎内の奥に打ち込まれる熱い矢の感触と、出しても出しても止まらないような長く尾を引く絶頂に、耐えるだけだった。

最後の一滴を絞り出すために、皆本がペニスに力をこめた。その拍子に膣奥がぐりぐりとこねられた。その衝撃で、紫穂の意識はブラックアウト。白目をむいて、気絶してしまうのだった。

葵が何か叫んでいたが、紫穂の耳には届かなかった……。

紫穂が目を覚ますと、朝だった。

夢ではない証拠に下腹部が痛くて、重いとてても小学校に行けるような体調ではないので、ずる休みをした。薫は不思議そうに、葵は気まずそうな顔をして、でも何も言わずに学校へ出かけて行った。たぶん、薫には『生理が始まった』とでも説明していることだろう。

皆本は仕事を休んで看病してくれた。もつともチルドレンの体調管理も仕事のうちなので、自宅勤務と言えなくもない。

皆本は、いろいろと言いたいことはあるようだったが、黙っていた。二人同時に絶頂を感じた瞬間、紫穂からの感情・記憶が逆流したらしい。自分への思慕を知ってしまった、なかなか強く叱責するのも憚られた。また、なにより、はつきりと快感を共有してしまっているのだ。怒りにくいことこの上ない。

皆本は悩んだあげく、こう言った。
「紫穂の気持ちはうれしいと思う。でも、こういうことは早すぎる。もっと大人になってから、いっしょに考えよう」

その返事は予測の範囲内だったので、紫穂は反論しなかった。

とりあえず、今は、皆本の心に自分を食いつまわせることができただけでよいのだ。

皆本の心の中に封印されていた光景までには、まだ時間はある。そこまでに逆転するチャンスはあるはずだ。なんとといっても、まじめな皆本が、一方的とはいえ一度肉体関係を持ってしまった自分を無碍にできるわけもない。そう紫穂は考えた。

……とりあえず、体も痛いし、一つだけ条件を出して認めることにしよう。
「眠るまで、手をにぎって……」

…FIN

■あどがき■

JIBAKU-SYSTEM

2006.12.31

<http://home9.highway.ne.jp/jibaku/>
kimidori@pb.highway.ne.jp

DAY LIGHT STAFF

■竜牙さん■

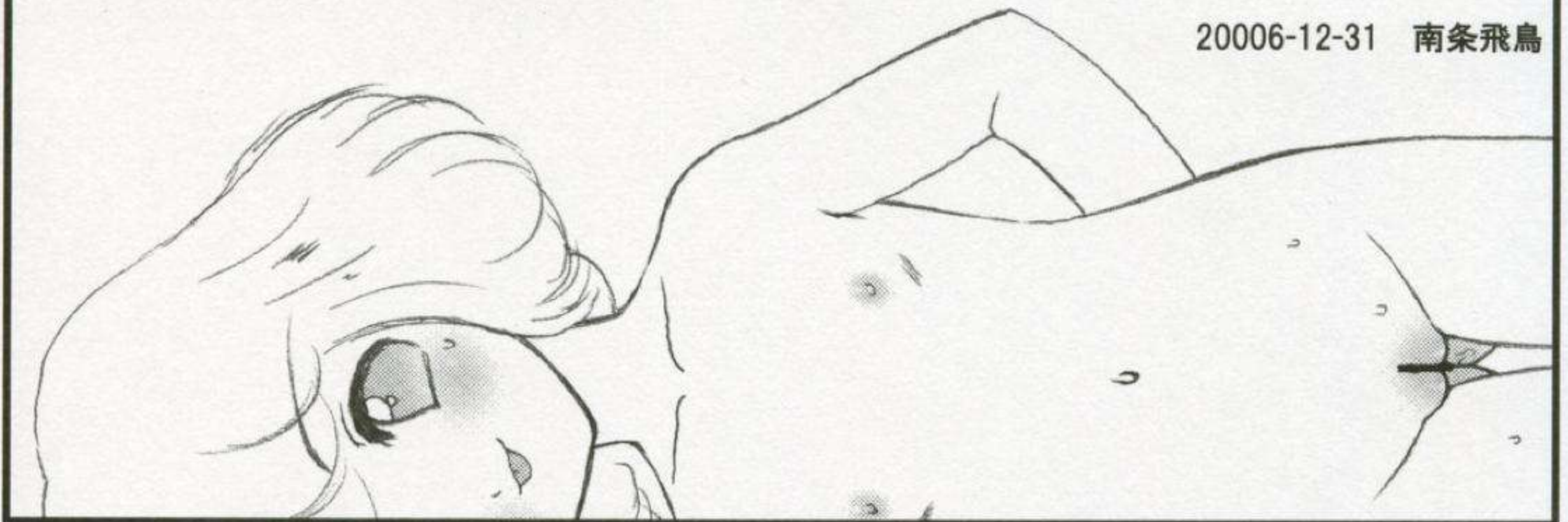
「竜牙で～す。ゲスト依頼もらったの久しぶりなので緊張しますた (> ω <) /
自分のところの小説より気合い入れて書いたよ！
でもぜんぜん頭がエロス脳にならなくて、おそくなってごめん
ぬ……(´・ω・`)
次の機会があったら、もっと早くする～！
しかし、耳年増サイコメトラ萌えw<ちょ
次は孕ませようかな～♪」

■南条飛鳥さん■

サイコメトラで耳年増でツンデレな紫穂は、意外と南条は好きなのかも知れません。
もー「このクソガキー！」感がたまりませんなあ♥

いずれ自分の同人誌でも描きたいです。
紫穂がもー、ターイヘンな事になる漫画をw うはうは。

20006-12-31 南条飛鳥



■涼樹天晴■

お久しぶりもしくははじめまして
ロシアの多砲塔戦車並み(微妙)の存在感でヘツツァーて可愛くていいよねの涼樹天晴です。
かなり追い詰められました…いやも一間に合わなくなるんじゃないかと
考えるぐらいギリギリでした^^;
もう最終阻止臨界点締切りまで数時間だし…トム出版さんいつも助かります^^;
それにしても今回のこの原稿やってる時に恐怖を味わいましたねー(´-ω-`)
季節外れの嵐で落雷停電を恐れHDDから少し不安な異音はするわ…
とりあえず完成までもってくださったので良かった…これ終わったら一度データを
整理しようと思います^^;
あと竜牙さんと南条さんありがとうー^^

S.H.I.H.O

THE STRONGEST CHILDREN IN THE WORLD.
B.A.B.E.L

Though it gets him, they don't choose a means.

🐾 JIBAKU-SYSTEM

2006年12月31日初版発行

発行 自爆SYSTEM (涼樹天晴)

HP : <http://home9.highway.ne.jp/jibaku/>

メール : kimidori@pb.highway.ne.jp

印刷所 トム出版 様

18歳以下の未成年への販売を禁止

無断転載・複写を禁止



S.H.I.N.O

The strongest children in the world.

🐾 JIBAKU-SYSTEM 2007

B.A.B.E.L

Though it gets him, they don't choose a means.